

川 山と里をつなぐ

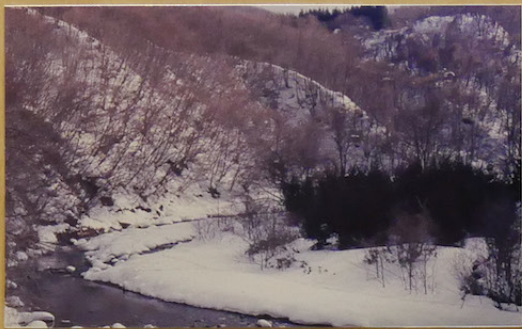


船形山東麓から流れくだる荒川の清流。かつて山から伐りだされた薪木は、増水した荒川の流れて来って色麻まで運ばれた。

荒川は、一年を通じて豊かな水量を保ち、とくに毎年田植えをひかえた五月には、雪代水ゆきしろみづと呼ばれる雪解け水で流量がふくれあがる。升沢から吉岡・色麻への道が、トラックはおろか馬車も通えない険路悪路であったころ、伐りだした薪木を大量に運ぶ手立ては、荒川の水流し以外にはなかった。

升沢集落は南に荒川、北に升沢川が流れる河岸段丘上に営まれていた。荒川は深い谷をきざんで、谷底から段丘上の村に水をひくことは難しい。人が生きるための生活用水も、田畑をうるおす農業用水も、段丘上を流れる升沢川の堰から水路でみちびかれ、ムラの家々と田畑をめぐっていた。

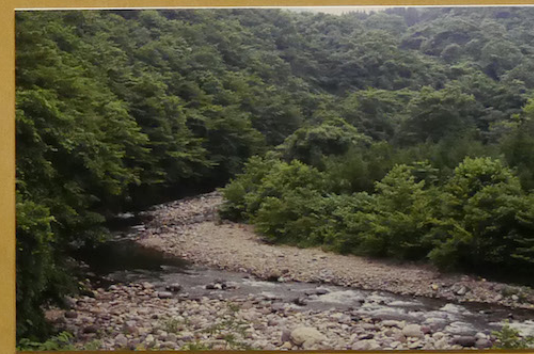
升沢の人々は、大人も子どもも川漁、「魚っこ捕り」が大好きだった。小学生が学校をさぼって山川で遊ぶことを「山学校」「川学校」と言いならわしていた。



荒川 冬



荒川 春



荒川 夏



荒川下流花川(色麻町)